京城新報

●陰曆 五月九日

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人
京城西部西小門通 發行所 京城新報社 電話六[illegible]三番

宮相李允用(三)

寄山生

▲大院君は最初自分の眼がねで三國一の良い婦を揀擇所から非常に御滿足であつたが彼れが[illegible]ではない、斯ふなつては此女の[illegible]の嘆き始め[illegible]のであつた[illegible]大院君には彼れ[illegible]の婿がね[illegible]適すると同時に閔陵斟といふ宮中の奔名を彼れに賜し且つ別入侍の特典を與へた、此の別入侍といふは何時でも自由勝手に宮中に出入するとの出來る名目で誠に[illegible]なものには[illegible]ソして許さ[illegible]な[illegible]の計ひはサア大院君が彼れを遠慮なく宮中の奥室に[illegible]入せしめソシて皇帝に接近させ[illegible]政務に就ての機密やら國事に就いての魂膽やら[illegible]しめ以て彼れをして皇室に對して一種の力を揮はしめんとの心算であつた、固より利巧鋭敏の彼れ[illegible]御念にや及ぶべきとの拔擢の下に萬事萬端拔け目なく舅殿の[illegible]を[illegible]た[illegible]した。

▲言ふ迄もなく當時の宮中に於ける事情は讀者の疾うに知つて居る通り、閔妃の勢力が非常なもので又之れに附隨する閔家一派の野心が却々に凄いものであつた、大院君も之れには少なからず心を惱まされ何とか之が勢力の撲滅法はあるまいかといろ〳〵と彼れに諮るところがあつたが彼れは毎時も其の度に御心配は御無用と許りに舅殿を慰め且つ慊かして居つた、兎角して彼れは始終宮中の奥室に出入して居る内今度は閔妃からも知遇を受け終には一方ならぬ御鍾愛を蒙ることゝなり、果ては其の帷幕に參して謀を運らし、策を獻ずるが如き深き君臣の關係を結ぶことゝなつたのである、果せる哉彼れが其の狐の如く又狸の如き性質は爰にソロ〳〵其の地金を現はして來たのである千番に一番の兼ね合ひ幸に尻ッ尾を出さぬ欧拍手喝采の至りだ

▲或る日閔妃には四邊の人をば拂ひ彼れを側近く召されたが彼れは何事の御相談かと鞠躬如として御言葉のまゝに御側近く侍べると閔妃には微かに口をお開きになり自分一派を撲拔せる[illegible]の希望を一伍一什細々と打ち語られた、固より一を聞いて十を知り十を知つて百を悟る彼れのことであるから閔妃の言葉を終らぬ先きから事情の大要は感付いて居る、頓で恭く其の話を聽き了ると彼れは逐一承知、委細合點と許りに早速其の意に叶ふべく快諾した、扨て閔妃に於かれてもヤット安心したが壁に耳あり、障子に目ありで何時の間にか此の大事な話が諜者にも舅殿の大院君の耳に這入つた、大院君には怒ることか怒るまいことかソレは〳〵一通りならぬ立腹である、[illegible]に思寵に預つて居りながら今更ら閔妃の一派に加擔しやうとは何たる不心得の奴かな飼ひ犬に手を噛まるゝとは此の事呼々自分も人を見損つたものよと心底から悔んだのである、而も彼れが裏切りの尻ッ尾は爰に遺憾なく現はれて了つた、

▲サテ其の[illegible]用法ヤハッ兄と共に宮中に於て相當に用ひられて居つたが殊に閔妃には李兄弟を重用し自己の勢力扶植上大に利用したが何方等も却々に役に立つた方である、所で前にも述べた通り閔妃の勢力はドウしても[illegible]を經るに從つて益々旺盛を極むるといふ工合トウ〳〵終には舅殿の大院君をば其の怖ろしい勢力の下に難なく抑へ付けて了つた、爰に於てか大院君には手も足も出なくなり殆んど氣銷沈の姿であつたが斯くてはならずと大に計ると[illegible](つゞく)

小品文 若葉

夏子

嗚呼木々の若葉子はこのうつくしき若葉の年と共にその發育の益々盛なるをよろこぶものなり矣想起す去年の今月予はこの愛すべく掬すべき庭前の若葉を後にして決然羈旅の人とはなりぬ、予汝と相見ざること茲に一年、この一年間に於ける感慨幾許ぞ、天眞無情の若葉汝は果して予と其感を同ふするや否や

評、思ふに感を同ふするなるべし

小說 新不如歸(三十)

篠原嶺葉著

やがて兩個は招仙閣の樓上から眺めた巖の傍に近づいた。

巖は星を戴きたらんには三十餘は容易く數かるゝ程の平扁な巨巖で、一面は面白き枝態の磯馴松に蔽り、一面は女波夫波の打寄する岸に臨むで居る。

今まで聞き日に翅を休めて居た一群の鴎は人の氣勢に驚かされて、バタ〳〵と立去つた。

見るより百合子は殘念さうな顏色をして、

「あら貴方奈何致しませう、鴎は皆んな逃つて了ひましたわ。」

敏男は高く笑ひながら

「そりや立つて行くさ翅があるもの、捕れたら奈何爲やうと云ふの。」

「私貴方に捕つて戴いて、母樣へお土產に致さうと思ひまして。」

「はゝ〳〵愛らしい事云つてるぢやないか、目の見えない、羽のない鴎なら取れるかも知れないが、いくら私だつて捕まへる事が出來るものか。」

「だつて、先刻見た時睡つてたんですもの睡つてるんなら捕まるでせう。」

「睡つて居たつて、人が來りや目を覺すさどうして然う容易く捕まるもんか。」

「可厭な鴎ですことね、チッと睡つて居れば宜うございますにね。」

「はゝ〳〵逃げた鳥は爲方がないが、どうだ此巖の上に登つて、方々の景色を眺めやうぢやないか。」

「だッて私上れませんわ。」

「なに上れない事があるもんか、皆んな上るさ見へて道が附いてる……さあ又私の手に[illegible]と掴まつて在で。」

百合子は云はるゝまゝに敏男の手に緊と掴つて、自然に通じた一條の道を傳つて巖の上に上つた、百合子は嬉しさうに、

「下から見れば那樣でもないやうですけれど、上つて見れば隨分廣い大きな巖ですね……あら些と[illegible]を御覽なさい、那處等らしい松が巖の間から生てますよ。」

「さあ、百合さんは田舍道なんか歩行きつけないから疲勞たであらう、此處に腰を掛けて少し休まうぢやないか。」

云ひつゝ巖の小高い所の塵を攘ふてハンケチを布き、自分先づ腰を下ろして百合子に勸めた。

「[illegible]なんか出や爲ませんわ、徐々歩行でるんですもの。」

云ひつゝ嬉しさうに並んで腰を掛けた。そして遙な海上に往來ふ漁舟や商船を眺めて、

「私の貴方、[illegible]來たりする所は、丁度水彩畫でも見てるやうですね、私、這麼所大好ですわ。」

「那樣に好なら、此邊へ別莊でも造つて、夏になれば避暑にでも來るやうに爲やうかね。」

「別莊なんか造らなくても、時々斯うして遊びに來た方が面白いぢやありませんか。」

「そりや然うだ、ぢやこれから毎年密月の紀念に遊びに來る事に爲やうね。」

「どうぞ連なすつて下さいな、私這麼樂みなこと生れてから始めてゞすわ。必然でせうね。」

「必然だとも、必然毎年連れて來るよ。」

云ひつゝ始めて心付いた如く、

「百合さん此方にお出で、何とも思はずに居たが其處は太陽が射つてる、大切な百合さんを日に焦げさしては泣く人があるよ」

「あら那樣事有仰つて焦げたつてようございますわ。」

云ひつゝも、從順に敏男の辭に從ふた。



京城新報

列國より見たる韓國

今春帝國議會に於て、林外相は日韓の關係を説明するに際し、帝國の韓國に於ける宗主權は列國の承認する所なり、帝國は列國に何等顧慮する所なしとの意味を言明せられたりき、外相の言明は伊藤統監の施政方針の言明に外ならず、然るに伊藤公の統監政治は往々此言明に反するの傾向あるは何ぞや、特に近來列國の意向云々に憚りて何事も斷ずる能はずとの説盛なり、余輩は之を以て一個の巷説と信ずるも、事實の之を證據立つるもの、顯現せんとするに於ては到底默する能はざるなり。

韓國の事は林外相の言明せる如く、全く列國は帝國の宗主權を認む、此權義を擇ぶに於て何の顧慮する所あらんや、見よ列國の韓國に對する關係を、我同盟の英國は少數の宣教師が基督教を布教すると、シンサング煙草の輸入位に留り、獨逸は少數の人が鑛山に從事すると、貿易に於ては僅々たる雜貨を輸入するに過ぎず、露國は唯境を接すると云ふのみにて何等特種の關係なし、最も關係を有すと言ふべき米國は如何、比較的多數の宣教師が在韓すると、鑛山に從事すると、電氣水道の一事業と、少數の貿易あるのみ、何ぞ帝國の關係と同一視すべけんや、歴史より觀察するも、現實の狀態より見るも、帝國が列國に比して絶大なる深き關係を有することは明なり、之を以て列國が帝國の優越權を認め、帝國の宗主權を確認せる所以なり、斯くの如くなれば帝國が正當の權利を實行するに於て、列國は何等の故障を言ふの理由なく、亦彼是容喙する資格を缺けるなり、假令帝國の行爲を云々と批評するものあるも、是れ全く一部の人にして決して列國の輿論に非ざるや明なり、之等の爲めに正當の權利を行使するに躊躇するが如きことあらば是れ怯懦の甚しきものにして、[illegible]信を國際間に失墜するに至らん、由來外交家は手腕の鈍き所以を斯る時に於て試驗せらるゝなり、伊藤公は外交家を自任せると聞く、余輩も亦公に於て公に外交的資格あることを認むるも、[illegible]一部の外人が統監政治を[illegible]するは決して意とするに足らず、[illegible]行せられむことを深く待望して止まざるなり。

紅蔘の專賣

紅蔘の官營專賣法匪に施行せられんとす、之に因て蔘政に多少の改善を見ると否とは將來に徵すべきなり只恐る專賣の生命たる命令價格は如何なる方法に因つて之を維持せんとするか當局の考慮すべきは專ら此點にありと信ず

閣員の動搖

頃者閣臣の異動あるべく、將た一部の更迭あるべき噂は頻りなりき、俄然昨日其異動を見るに至る、宋氏內相に、高氏法相に、趙氏農相に、任氏度相となれり、更に總理完用氏去りて金允植總理たるの噂あるも未だ發表に至らず、余輩は此異動に就ては何等の進境を認めざる者なり

▲露國議會と軍備

伯林電報

露國議會豫算委員會は數年間に亘る造船計畫に基づき實戰に堪ふる艦隊の建造海軍々令部編成及び陸地防禦法の改正を建議せり(五日東京經由)

▲南清ボイコット

廣東電報

香港に於ける日本品排斥は鎮定に歸したるも上海に於ては未だ鎮定せず銀行船主石炭商等損害を受け居れり(五日東京經由)

▲外交官交迭

東京電報

明日親任式あり珍田捨巳林權助全權大使に任じ珍田は獨乙に林は伊國に駐剳仰付けられ石井通商局長は外務次官に山座政務局長は英國大使館參事官に倉知參事官は政務局長に萩原總領事は通商局長に任せらる

▲騎銃改正

陸軍にては日露戰役の結果に鑑み騎兵の任務を偵察に止めず敵國と應戰するの必要あるを認め銃器改良に關し研究中なりしが試驗の結果良成績を得たるを以て目下鑄造中なり

▲大藏次官候補者

大藏次官候補者は濱口專賣局長辭退せば添田壽一或は松尾臣善に決すべし

▲緊急閣議

今日首相邸に於て緊急閣議を開けり(以上五日午後發)

●韓內閣の動搖

韓國內閣に動搖あるべしとは我社の夙に報道せし所なるが一部の人々は決して此の如き事なしとて之を否認せしも一昨夜愈々更迭を見るに至れり

農商工部大臣　宋秉畯
法部大臣　趙重應
度支部大臣　高永喜
學部大臣　任善準

尙は總理大臣李完用氏は辭表を呈出し中樞院議長金允植氏入りて總理の椅子に就くべしとの說あり

▲外交官新任式

昨報の如く[illegible]宮中に於て外交官親任式[illegible]

▲東京物價の低落

[illegible]四月に比し[illegible]

▲辰馬商會の要求額

第二辰丸押留事件に付大坂辰馬商會の損害賠償要求額は二十一萬八千圓なり

▲國債現在高

日本國債の現在高は二十二億二千二百四十萬圓なり(以上六日東京發)

●大臣交迭の眞相

昨日突然四大臣の交迭を發表せられたるが今前後の關係によりて觀察するに此の交迭は統監の發意によるものに非ずして閣臣の協議によりて決定し統監は單に承認を與へたるのみなるべく隨て此の交迭は次官其他の地位には何等の變動なかるべし趙に宋農相の辭表を提出するや統監は此れを却下し同時に李總理以下二三大臣を招きて懇々訓諭する所ありたる模樣にて此の訓諭に基き閣臣は相一致して國政を翼贊すべしと誓ひたるものゝ如く(假令表面にせよ)以て內閣の瓦解を彌縫せられたるも偶々或方面より任善準の內部大臣たるに不適任なりとの說出で內相の地位は宋氏の望む處にして同氏が農商工部を去るは統監の異議なき所なるべく而かも任氏は李總理の親近にして內相を去らしむるとせば閣臣中良好の地位なりとせる度相たらしめたき希望ありしなるべくお人好しの高永喜氏は唯々員に法部に入りしならん而して趙氏の農相たるに至りしは高氏よりは勝なりとの意味に過ぎずして趙氏自身は關係せざりしなるべし今後注目すべきは內部にして希望通り內相永く其の椅子を保ち得るや否や農商工部に於けると同一の考へにて政務を處理せんと欲せば或は大に手古摺りて自ら引退するに至らざるか玆面白き觀物と云ふべし

●觀察使の招待

會議のため來京中の觀察使及び漢城府尹は昨日午後一時より慶福宮內慶會樓に催さるゝ李總理の招待會に應じ本日は午後七時より愛國婦人會の招待により皇太子日本在學中の模樣を寫せる活動寫眞を觀る

●再び不動産貸付に就て

帝室財產整理局に於て取扱ひつゝある京城市內及附近の土地家屋の貸付出願件數は既に七百件に達し其剩すは前報の如く宮內府が特に保管の必要ある地區若くは競願に係はり居る爲めに目下詮議中のものを除けば僅々許借すべきは二三件に過ぎざるとの事なるが今當局者が貸付手續の次第を聞くに出願書類は總務局日韓人高等官の會議に附する事となり居り出願地にして宮內府に於ける歷史干係より典禮慣習等雜多の干係よりして許借し難きものは直に之を却下し許借し得べき向は主事技手一名宛を現場に出張せしめて出願人立會の上境界地區其他有ゆる綿密なる踏査を遂げ其差支なきを認めて單獨出願なれば容易に之を許可するも若し出願地區に就き貸下出願件數か二件以上多數に亘る如き競願の場合には之を入札に付するか又は再應當局の會議に付して何れとも處理しつゝあり而して許借の形式中に付從來所屬關係の錯綜せる宮內府不動產の事とて事後正當の理由ある事情の發生するかなくば宮內府自身違かに使用の生ぜし場合には當事者間の契約は之を解除すべき條件をも附しありと云ふ

●海朝新聞廢刊

浦鹽斯德に於て發行せる海朝新聞は同地居住の韓人崔鳳俊なる者社主となり崔晩學署名し過激なる言辭を弄して韓人を煽動したるに依り內部大臣より發賣頒布廢止の處分を受くる事最近に於て四回に及びたるが到底收支相償はざるを以て遂に廢刊したりと云ふ

●改正警官服制

韓國警察官の服制改正のため調査中なりし事は既に報導し置きたる所なるが略々決定し遠からず統監府の承認を經て發表せらるべく其の樣式は李花を中心として櫻花此れを抱けるものを徽章とし略服正服の區別を設けずして正裝の場合は肩章を附し日韓人の區別は襟章の有無を以て表示せらるゝ事となるべしと云ふ

●京仁清酒界の現況

本火入りの發賣
古酒より一圓落

麥酒と代謝して清酒の需要は已に減少し居れるが昨今は所謂本火入り賣出の季節にて宅合名會社にては既に五月下旬より賣り出し大塚島井(春駒)亦相前後して新酒を發賣する筈なり從て昨今古酒の需要著しく增加し各店とも相應に繁忙なり然れども是れ素より一時的現象に過ぎずして程なく舊態に復す事勿論なり本年の新酒は古酒に比し各酒とも約一圓落ちなりと云ふ

●韓雜貨商の大打擊

例年五月中旬より六月の下旬にかけては洋傘の最盛季にして僅々月餘の間に仁川港より韓內地へ轉送さるゝ洋傘の數は實に二百梱三万六千本以上に達し何れの地を問はず韓人向雜貨商の夏期に於ける唯一の利源なり然るに本年は財界不振の結果阪地製造元の手元甚しく圓滑を欠ぎ中には職人の賃銀にも差支ゆるを生じ已むを得ずして休業せる者ある程なれば彼等は一般に洋傘の原料(生地)を擔保として銀行より資金を流用し昨今需要の季節となりたるにも拘らず融通の如くならざる爲め生地を引出す事能はざる結果待ちに待ちたる韓國よりの注文に應じ得ざる模樣にて一向送荷し來らざる爲めに韓國に於ける斯業者は折角の利益をみすく放擲せざるべからざる狀態にあれば比較的資金の潤澤なるものは此際一攫千金の利を占めんと畫策し居れる由而して洋傘に對する韓人の嗜好は昨年と大差なきも韓人は一般に深きものよりも寧ろ大なるを愛し普通日本にては二十七八吋の傘需要最も多けれど韓國にては三十吋乃至三十一吋の品を愛し殊に本年の如き三十二吋以上の注文尠からず値段一ダース八九圓より十一二圓邊の品賣脚早しと云ふ

●江界地方の狀況

江界は平安北道の北部に於ける戶數八百四十五戶人口三千九百六十二人を有する第一の都邑なりと雖も鐵道線路を距ること五十餘里鴨綠江を隔る約十五里の山間にして交通運輸の便至つて惡しき爲め外來品の價格極めて高し而して郡の內外は突如たる山岳櫛齒の如く耕地狹少にして地質又粗惡なるが故に土地の農產物は以て己の需用を充すに足らず日常必要の飮食物より被服材料に至るまで其大部分は他地方より仰がざるべからず從て支出の多き他に其類を見ざるなり然るに郡の收益材料としては其重なるもの獸皮木材の二種に因るの外なし故に收支常に相償はざるの狀況なるも土人は其特性として專ら目前の小利に走りて資を投じて事業を起し以て收支の闕を補はんとするか如き奮發心なく唯々閑々として目前の小利を貪らんと汲々たり以上の如く運輸不便にして且つ產出物に乏しきが故に日本官憲の外他に外人の來往するもの少なし爲めに事業振はず人智の發達遲々として今尙原始の狀態にありて地方一般の淫風熾んにして現下邑內の人口三千九百六十二人中醜業婦約四百人の多きに達し又邑民の賊心に富む寸時と雖も物品を戶外に放擲する能はず又一面地方官界の風潮を探知するに往時專決時代の如く橫恣の慘害あらずと雖も裁判上には幾分の舊弊を存し原被の曲直苞苴に依りて決せらるゝの傾向あるが故に官民の間意思の常に離隔して一の氣脈を通ずるものなく一般官吏を見ること猛獸の如くなりと云ふ然れども人民にして若し官吏の行動を口にせんか禍忽ち其身に及ぶが故に喩へ偏頗の判決を受け害を被るも後難を恐れて知己親族にも語るものなしと云ふ又宗教は儒教佛教侍天教天道教耶蘇教の五種にして儒教は一般人民に國教として尊崇せられ佛教侍天教天道教は今や殆んど衰頽に歸し耶蘇教は近來漸時其勢力を扶殖し教會堂を東門內內浦洞に置き其主管者は宣教師車學淵にして米國宣教師バレー!ホーなるもの時々巡回し來ると云ふ而して今や其信者百三十名に達せり又男女學校を新設して男校には教會堂の一室を西部西門洞韓贊玉方の一室を之に當て女子部を東部府洞洞に置き車學淵の妻趙談淳を學監とし男生七十名女生二十名を有し其他邑內に於ける寺小屋的學校と雖も教鞭を執るもの概して耶蘇教信者なるか故に必ず聖書を備へ機に乘じ折に觸れ生徒に耶蘇教の觀念を注入しつゝありて其勢力は日々に益々盛大を極めつゝあるの狀況なり(未完)

●歸順者累計

五月三十一日に各道警察署及同分署に歸順したる暴徒員數總計九百三十八名にして之れに郡守宣諭委員に歸順せる暴徒員數五百九十一名を加ふるときは二千五百二十九名に達す而して自五月廿一日至五月三十一日の十日間の歸順員數は百四十五名なり

●會議所退任議員

本月末日本人會議所議員半數改選のことは世人の知る如くなるが之れに就き滿期退任議員は總計九名にして人名は下の如し

一級　淵上貞助、中村再造、曾我勉、
二級　松浦源治、增田三穗、佐野彥藏、
三級　林田金次郎、森久兵衛、大曲和一郎

●各國居留民會例會

昨日午前十時仁川各國居留地會例會を開きたる日本人側議員大津、富田耕司の兩氏出席したり

●吉松司令官の歷訪

練習艦隊司令官海軍少將吉松茂太郎氏、嚴島艦長海軍大佐小花三吾氏、橋立艦長海軍大佐西山實親氏及び參謀海軍大尉子爵田村丕顯氏は昨日午前十時より仁川理事廳民役所其他官公署を歷訪せり

●各裁判所法官の補任

平山銓太郎氏以下七十二名は一日付を以て京城控訴院及び所定の各地方裁判所各區裁判所檢事に補し昨日の官報にて發表されたり同時に書記七十四名夫々補せられたり

●菊池理事官

滯京中なる平壤菊池理事官は[illegible]模範場視察の爲め水原に赴けり

●島津公爵訪問す

桐原警視山口太兵衛其他鹿兒島藩出身者は昨日今回來着の帝國練習艦隊嚴島乘組の士官候補生島津忠重公を訪問し韓國特產物數點を贈呈したり

●海賊討伐隊の歸着

過日海賊討伐の爲め永宗島に向ひたる仁川警察署派遣鎌田警部及び金警部の率ゐる一隊は一昨日無事歸署したり

●靑木大明氏の訃

久しく東京日々新聞の韓國通信員として在京し歸朝後[illegible]の九州日日新聞に入り同社の爲め盡す所ありしが端なく日露戰爭開かれたれば兵役に徵せられて出征し滿州の野に轉戰し平和克復凱旋したる後は東京志岐組に入り京城支店支配人となりて來韓し次で滿州公主嶺に轉せし大明靑木廣太郎氏は同地にて病魔の侵す所となり藥石其効なく一週日前遂に溘然として逝去したりとの報ありたり

公人私人

△松村政記(晉州監獄典獄)　一昨日來京不知火旅館
△阿部判三郎(對馬中學校長)　修學旅行の爲め生徒引率一昨日來京三河屋
△富山要次郎(大邱監獄典獄)　一昨日不知火旅館
△綾部淳(步兵中尉)　東海旅館
△下山喜一郎(辯護士)　日の出館
△中山勝之助(大審院判事)　一昨日着任家族と共に旭館に投宿
△大山騰之助(海軍中佐)　巴城館
△石川長次(同上)　同上
△加藤安吉(海軍々醫少監)　同上
△三輪一夫(日本會計檢査官)　同上
△大塚古男(同屬)　同上
△繩手浦之進(同上)　同上
△那須宗一(鎭南浦土木局員)　牧野
△石岡猪四郎(工兵少佐)　山本
△花井善吉(三等軍醫正)　同上
△中村幸吉(同上)　同上
△奧村信猛(步兵中佐)　同上
△太田朗(步兵大佐)　同上

●愛國婦人會演藝會

曾て記載したるが如く一昨夜より歌舞伎座に於て開催したるに定刻前には既に會場所狹きまでに來聽者詰め掛け定刻に達したる時は入場拒絕をなしたる程の盛況なりしが演奏は例に依りて一般公衆をして愛ねず讃嘆せしめたる程の妙に入りたり尙昨夜も前夜に劣らざる盛況なりし

●紀念繪葉書を贈る

練習艦隊に對し[illegible]仁川民團より[illegible]士官室、士官次室には開港二十五年史一部宛、準士官以上には開港二十五年紀念繪葉書一組宛又下士以下には同繪葉書二枚宛寄贈する筈

●近事片々

▲統監府吏僚に藉傲と稱せらるゝ人迄が統監胸底の方針を知る者なしと[illegible]務官
▲事務官唯命是に從へば可なる政務官として統監の方針不解とは嘘ならむ怪べし
▲其理由は統監の人格大にして容易に計り知られずとは何處迄俗吏根性を現す噂也
▲統監の胸底計る可らざる大抱負あり英雄に非ざれば英雄の心事を解せずと面黑し
▲翙川志賀氏曰く韓國統監には伊藤公最も適任なりと人の者は矢張り面の異る如し
▲統監府吏僚や翙川氏には大分公も評判良きも人民の聲は如何あるべきや其氣遣し
▲一進會員の重立なるもの宋農相の邸に參し我韓數萬の會員將に饑餓に迫る也と
▲我韓會の爲に財產を蕩盡如何ともす可らず閣下は大臣の椅子に安坐すと淋漓
▲斯る悲境に沈淪するも閣下は顧せざるやと益々窮迫農相閣下顏色土の如しと云ふ
▲此說の眞僞は知らざるも宋氏の一進會に於ける聲望頓に墜落し煩悶一方ならずと
▲因果は廻る小車の最初利用して大臣の椅子を贏ち得たり今更不知顏の[illegible]は非
▲日韓貿易は著しく減退し商船會社の積荷米穀は甚く斗り減少せりとは歎息すべし
▲原因は種々あるべきも暴徒跋扈は重なるべし之を思ふも地方鎭定の急務を感ず也
▲氷宣君近頃放逸に流るとは困つたもの祖父の面影を多少だに保存せすれば人が如し嘆
▲近頃二美妓を受出して寵せんと務るも兎角嫌て之に從はず爲に怒て放棄せりと云
▲我が岩倉公爵の次男具幸氏赤坂藝妓に深く打込み一萬金にて手活の花とせりとは
▲華胄の身にして斯る行爲に沈湎して耻る所なきは沙汰の限也風教の廢頽も亦極る
▲蔣議の社債は價格百磅に付九十八磅にて期限三ヶ年政府元拂利保證にて成立せり
▲而も非常の好評を以て迎へられしとは甚惱れし帝國の滿州經營は前途益々多望也
▲九日目相撲玉椿高見山を倒し駒泉伊勢濱を倒す双方共氣拔して人氣餘り引立たず
▲駒と梅との[illegible]梅の喝采を以て迎へらる駒の八分通り込稱で梅の敗さは案外也
▲本場所は國見荒岩常陸の途中休場と雨天とで人氣落ち終に龍頭蛇尾に終りたる也

●園藝協會相談會

井上入駿氏主唱の下に成立したる京城園藝協會は昨六日日本人倶樂部に於て重立ちたる會員の相談會を開きたる由なり

●對馬中學生と仁川民團

昨日來仁する對馬中學校職員及び生徒併せて八十四名に對し仁川民役所にては開港二十五年紀念繪葉書若干を寄贈すべしと

●代用看護人採用

韓國駐箚憲兵隊にては今回代用看護人二十名を試驗の上採用したるが右は本部にて短期講習を行ひたる上各地方分遣所に派遣する筈なりと

●靑年演說會

四日午前八時靑年會場にて開會十時散會せり講士ビス氏は英國今度[illegible]の隆運の基は宗教心の各自熱烈なるにあり[illegible]韓國も求道者日に多し其隆盛期して俟つべ[illegible]

●大同會支部發會式

[illegible]一昨日午前十時より大同會京城支部發會式を西部養先亭に於て[illegible]で擧行したるに來會者六百名見物人約三千と注せられ餘興として官妓の手踊り等あり

▲外交官新任式

昨報の如く今朝宮中に於て外務省親任式[illegible]吉氏は特命全權公使に任ぜられ淸國駐箚を仰付けらる

▲辰馬商會の要求額

第二辰丸抑留事件に付大坂辰馬商會の損害賠償要求額は二十一萬八千圓なり

▲東京物價の低落

五月中の東京物價は四月に比し又々七厘方の低落せり

▲國債現在高

日本國債の現在高は二十一億二千二百[illegible]十萬圓なり(以上六日東京發)

●圓藝協會相談會　井上久間氏主唱の下に成立したる京城圓藝協會は昨六日日本人俱樂部に於て重立ちたる會員の相談會を開きたる由なり

●對馬中學生と仁川民團　一昨日來仁する筈なる對馬中學校職員及び生徒併せて八十四名に對し仁川民役所にては開港二十五年紀念繪葉書若干を寄贈すべしと

●代用看護人採用　韓國駐箚憲兵隊にては今回代用看護人二十名を試驗の上採用したるが右は本部にて短期講習を行ひたる上各地方分遣所に派遣する筈なりと

●靑年演說會　四日午前八時靑年會場に於て開會十時散會せり紳士ビス氏は英國今日の隆運の基は宗教心の各自熱烈なるにありて韓國も求道者日に多し其隆盛期して俟つべしと云ふ聽衆百餘名なりと

●大同會支部發會式　一昨日午前十時より大同會京城支部發會式を西部奉元寺に於て擧行したるに來會者六百餘見物人約二千と注せられ餘興として官妓の手踊り等あり非常の盛況なりしと

●戀の左夫人(中)

△怨魂粲の趙重應▽ △嬌附たり金と女▽

光岡竹子の前身が鎌倉河岸の馬車屋の兒でも無く蒔具屋の娘でも無く神田錦町は二丁目の安い下宿の娘さんたることは既に之を記したれば今度は當時の趙君重應先生に就てチョックラ書くべき順序となつた云ふ迄も無く趙君重應先生は今でこそ漢城の政界に在つて飛ぶ鳥も落さんず勢なるが今より十年前は[illegible]年の春は正に[illegible]上野が丘は花の白雲往來の人も蹈み迷ふ程の景氣[illegible]生れ故郷の韓國に居堪らず[illegible]同志と共に日本に亡命したは[illegible]なく殆んど其身を持て餘して行當りバツタリに死なんと迄思ふたとか今の境遇と比較したらば本人無や感慨に堪へぬことであろう斥は兎に角世間に鬼は無い譬への如く趙君其後或る人に拾はれて外國語學校の教師となり降る日照る日の差別無くテク〳〵通はせはオギヤコギアの韓文を教授することゝなり先づは月給も大枚三十兩と云ふ當時には大した收入、例の冠の纓の斷るゝ程の大喜び昨日の悲慘に打較べて意氣得々たる者であつた、彼れが山崎の宅を出でゝ彼の光岡の下宿屋に暫しの御輿を据ゆるに至つたは正に此の時……男欲しさの若後家は此の珍客を何と見たるか

[illegible]資金の件に就き後難きこともありとかにて今回某氏より告訴せられたりと云ふ

●郵便物紛失　一昨夜八時三十分着大門驛着の列車にて郵便物百三十三個を搭載し來りたるに京城郵便局員は之を受取りて歸り檢め見たるに百三十三個の中百卅二個だけありて一個不足したるにぞ京城局にては大狼狽を爲し直ちに南大門驛南部署と其筋に電話にて通知し搜査したるも未だ發見せず然して該紛失したる一個は水原局發の者に係り現金入りの者にて目方六七貫目の者なりと云へば南大門驛より京城局迄の途中にて遺失したる事も無く然りとは云へ南大門驛にて受取りたる時確かに百三十三個ありたる者ならば途中に遺失したるより外に紛失の途なくにしても容易ならざる出來事なるを以て目下極力取調中なり

●統監の義甥訴へらる

平家の一門は太政大臣淸盛の勢に依りて六十餘州の半分を領し榮華の夢を見しも束の間にて壽永の秋西海の藻屑と消へて壇の浦波に哀れを止めしが今の世にも權勢に關係して鳥なき里の蝙蝠の如く羽振げて驕りを極むるもの尠からざるは愛てきことゝ限りなれそれとこれとは違へども伊藤統監の夫人梅子の方の甥にて元は大倉組の手代にして今は平壤鑛務所長の官職を帶ぶる林文太郎氏は統監夫人の緣に繫がる譯ではあるまいけれど平壤に於ての時めきは一通りならざるが氏は曾て關係せし平壤市街人車鐵[illegible]

●仁川口港の溺死體　昨日午前入港したる大阪商船の安平丸檢視の爲仁川の某監視官が宮丸に乘して同船に向ふ途中内港入口方面に於て一溺死者あるを發見したる船員甲板に登りて凝視したるに右溺死者は韓靴を穿ちたる所より見れば韓人らしきも何分顏面及兩腕は魚類の腹を肥したるものか肉は破れて白骨露はれ二目と見られざる形態なりしより察すれば多分死後數十日を經たるなるべしと云ふ

●怪しな無錢遊興　千葉縣生れ當時龍山元町桑澤染工場に雇はるゝ林則(二十九)と云ふは一昨夜十一時頃より新町遊廓大桝屋方に登樓し敵娼を呼びて散々遊興を爲したる揚句例に依つてイザ勘定が出來兼ね仲居から嚴しい催促を受くると持合せは無いから如何にでも爲せと濟まして居るにぞ大桝屋方にても持て餘し夜も明け方近き三時過ぎと云ふに新町交番に訴へ出でたるより警官出張して取調べたるに最初二圓餘を所持し居りたるも何處にて費消したかは薩張り判らず此家に登樓する時は尙此の二圓を所持する積なりしと曖昧の事を申立つるにぞ已むを得ず派出所に引致するさ此の男餘程茫居氣のある者と見ねへイ只今此の交番に來る途中私は劇藥を飲んで死ぬる積りでしたが何分巡査が油斷をせぬ者ですから遂い其の機會が無くて困りましたと携ふる一服の藥種を巡査の前に突き出したとは此の男些と異つて居る

●邦人の賊難　六月一日新義州憲兵分遣隊より偵察として慶尙北道永川郡北習面烏川洞附近に派遣せられたる憲兵上等兵は歸途烏川洞を進行せる處同村落の南端に「遠原多作」と記名せる新築家屋を認めしにより洞長に尋問せしに五月廿八日夜約十四名の賊村内酒店に來り金錢及酒等を強求中同夜寄泊せし前記日本人が賊徒の毒手に罹りし旨申告したるを以て家主を取調べしに口供によれば廿八日午後七時頃見苦しき服裝をせる廿七八歲位の日本人一名吾家に來り一夜の宿を求めしも吾家は小屋廠に老母及娘あり娘は竊に南側の一室に臥し居り吾等老母と二名は北室に伏し居たるを以て空室なき爲め斷りしも日本人は切に請ふて止ざるを以て娘を自分の室に伏せしめ其日本人を南側の室に伏せしめ置きたり同十二時過約十五名位賊徒來り酒を求めしも折惡しく其夜は酒なきを以て其由を遁べしに彼等は突然屋内に闖入し脅迫して金品を強請するの騷動中別室に伏し居る日本人は物音に目を覺し褌衣類を抱へて室より表に逃げ出せし模樣なりしも外には尙七名の賊在しを以て此を見付け口々に逃げ出せし比多く金を所持せる者ならん逃すなと後を追ひしに日本人は門外の溝中に倒れたるを十五名の者は此を捕へ始めて日本人なることを知りしが日本人なり〳〵と叫び居りしが前方の河原に連れ行きし後打殺せし模樣にして更に吾家に引返し來り酒の資上金七百百文を強取して逃走せりと云ふ

●魂但外れて百五十兩　龍山は去る所に世はせち辛島と云ふ男住みけり此の男多々良濱邊の潮風に多年吹き晒されたる程ありて轉びたりとて只は起きぬ一癖者故鄕には多少の資產もありたれど女の爲めに費ひ果たしたれば何日か土地にも住み難くなり好きで落籍した戀女房と手に手を取りて龍山に流れ渡り今の箇所に住みたれども素より定まりたる職業も無き者から如何に韓國とて寢ては虎に喰はれもせんが根つから牡丹餅は棚より落ち來らず小人は閑居して不善を爲す者と昔より相場の定まりたる如く遂いよからぬ目論見をなし京城明治町の口入屋三共舍の主人を味方とし其の妻を本町八丁目常盤樓に賣て取りたる左褄取らせ細工はりう〳〵仕上げを見よとばかり[illegible]たるが常盤樓にては斯かる事とも知らでありたるに其後度々辛島より呼び出しに來ることあるも大目に見てありしに最う此の頃が朝時なれど辛島は病氣にかこつけて其の[illegible]ざりしが斯くては折角[illegible]て常盤より嚴しく談判[illegible]態々何の某と云ふを使者に差し向けたるに此の男亦並大抵の者にあらず常盤の主旨も何も顧みればこそ辛島夫婦の一味に與みして茲に常盤樓乘取策を講じたるも好事魔多しと謂んか天は邪道に與せずと謂ふべきか其の事常盤樓主の知る處となりて一悶着を惹起し爲めに警察沙汰ともならんとする處に至りしが辛島も斯くなりては詐欺取財の罪名に服することなれば一方ならず閉口し狼狽百五十圓を返還して常盤に詫びを立てたりとは笑止千萬の挫なりかしとの投書を其儘斯くの如し

●因果は廻る腹の中　『樣は山谷の三日月』ならで朝から晩まで帳場の前にキチンと据つて帳簿をいぢくる意氣な容變に逆い惚れ込んだ娘旭町にあり名は暫らく記者の情けで世間に知らさねど近いとあれば日に三度加減の佳い湯で磨き上げたれ陰での假名手本は其の母君人自らの仕込みと一寸洒皮の剝げて居る處にれ剩に戀のいろ來てたるから堪らない入來しあいどれ客の前に靜かに叩頭をする隙も眼は口ほどに物言ひて此れ迄も度々浮き名を立てた事もあつたが今度と云ふ今度はズッとはずんで自宅の帳場さんに金輪際から持ち掛け今では他には夫れと岩田帶袖では隱くされぬ程の身となつて獨り機々心を痛め居れりさは因果は覿面イヤれ察し申す涙も無いと投書の盛は何の事やら

●怪しい韓人　住所不明張基澤(六十)と云ふ韓人は貧寠遊食の身分にも係はらず常に多額の金錢を所持し之を費消する擧動の怪しむべきものあるを以て昨日其の筋の手に逮捕されたり

●拾つて匿くす　中署後湯洞沈相兵家僉任元(四十)と云ふは一昨日午後四時四十分頃南大門通り二丁目會洞派出所前に於て小豆色革製雜囊一個を拾得して其儘下袴に隱匿したるを交番巡査に見付けられ引致さる

●飲んで毆る　長谷川町二丁目五十番飲食店開月樓方に一昨夜其の隣家の飲食店浪花樓の主人が入り來り代金四圓餘の飲食を爲したる揚句浪花樓主人は開月の亭主を毆打した剩けに金錢を仕拂はざるにぞ警察に訴へ出でたるが結局酒肴代は森常吉と云ふが仕拂ひ毆打は其儘泣寢入りにて事濟みとなりたるが[illegible]濟まぬは開月樓主人の胸[illegible]りど

●拐帶か　本町三丁目平田雜貨店方雇人佳及常三郎(二十二)は一昨五日集金日に就き朝より主家を出でたるが夜に入りても歸り來らず行方不明なれば何れ集金を拐帶したるならんと

●萬國動物園　仁川其他各地至る處に於て大好評を博したる六車萬國動物園は明日より當地西小門通りに開催し一般の觀覽に供すと云ふ

▲大曲吳服店の夏物賣出し　本町三丁目大曲吳服店にては七日より夏物の大賣出しを初めたるが珍柄新柄數多く取揃へ價格等も大勉强にて顧客に充分の滿足を與ふることは無類なりと

●ペンテコステの日曜　聖靈降臨の紀念すべき日なるが旭町二丁目名古屋城日本メソヂスト教會に於ては朝九時聖書講義同十時禮拜木原牧師の「靈的教會の誕辰」なる說教あり夕八時よりは「救の道」同牧師の說教あり有志者の來聽を歡迎すといふ

(平)(民)(文)(庫)

▲鐵道印刷部の監督さんが儲けた爲め其の妻君が三味線いぢくりを初めたからと何も滿山しい事は無い我輩はちやんと其の儲けた譯れを知つて居る(惡漢)▲韓國亡命者某の事に就いて投書した人よ其の住所を本社編輯局宛にて知らせよ本社は之を祕密に附して決して他に漏らさす(記者)▲水道會社の給水を初めたらばムリチャンスが困るは當然だ之れに何とか方法を講じて遣るは吾々の責任である(社會學者)▲待合春日の妻君は實に別嬪だが彼れの前身を知つて居る人があります(臺北生)▲畫は畫夜は夜で追い使はれて叱り飛ばされて這麼酬の惡い職業は無い(老巡査)▲在韓國の文士其の數決して乏しからず然かも討題既に盡きたりとなすが近來文壇の不振は經濟界の衰れよりも甚しからずとせんや(蚊士)▲夏季は誰れも毎日入浴したい此の際湯錢の値下げをなしては如何(大工の熊)▲高利貸と云へば憎まれ者の代名詞となり居れど大尾樣は多少の尊敬を拂はるゝは如何(變哲)▲栗島に海水浴が出來たらば我輩は最先きに驅け付くる漢城の婦女諸君競ふて來れ海水浴は必ず婦人と一緒に限る(自然主義者)

●天氣豫報(自六日午後六時至七日午後六時)

西の風晴れ

●六日午前六時各地氣象概況　一般に風力弱く北部は快晴其他は概ね曇天にして釜山仁川に濃霧あり

廣　告

西の宮お樂の述懷（七）

◎地獄で佛の古馴染

喜一さんと女房さんとの喧嘩の起りはツマリ妾の事から起つたので『お前さんもお前さんぢやないか東京くんだりまで行つて何んだつてマア那んな碌でなしの妓を抱ねて來たんですよ私は一目見た時にアヽ飛んだ背負込みもんだナとスツカリ氣を腐らして仕舞ひましたのサ』と申しまするど『俺らだつて何も洒落に東京迄藝妓を抱へに行つた譯ぢやない上ツ面を一寸見たばかりでツイ買ひつたものぢや彼れ那れでも本場の吉原仕上げだ』と喜一さんが申し譯をしまするとモウ女房さんが『腕は本場仕込みでもあの不器量で二百五十圓は高過ぎますよア』と口返しをしまするとヤイ〱馬鹿も休み〱言ひねエ田舎の藝妓か何んなちツコにもあるが兎も角吉原で腕を鳴らした藝妓ぢやないかソツれ安くは問屋で御ざれねーヤ『ハイ〱此りやア私の口が過ぎて誠に相濟みません……然し吉原〱と無暗に吉原を振り廻はしても土地の水に合はなきア何にもなりませんからネ……』なぞ〱女房さんの火の手がナカ〱強いのでムいます、ソレを手に取るやうに別間で聞て居る私の心持といふものはドンなに苦しいか知りませんソレに側には今夜始めて近づきになつた朋輩藝妓衆も居るし『アヽ何の因果でこんな恥晒しを仙臺三界迄もしに來たのだらう……』と染々口惜くなりましたから身体をブル〱とふるはせ夜着の襟を口に嚙へたまゝ明くる朝迄忍び泣きに泣き通しました女房さんがソン工合でしたから鶴澤に居る朋輩藝妓も自然と私を下目に見るといふ工合で其の當坐は一日だつて氣持宜く暮した日はムいませんソレに披露めをしてお坐敷に呼ばれましても言葉がカラツキシ分らないので帳場ではすゴ〱するお客樣には小言を頂戴する隨分まチメな目を見ましたが其の時國分町の唐物屋さんのお妾になつて居るお鈴さんといふ女が可愛相だといふので大層妾に肩を入れて呉れました此の人はもとヤハリ吉原の民田屋さんの娘ですが仙臺へ來て唐物屋さんの妾となつて花柳の踊りの師匠をして居て此の土地ではナカ〱顔が賣れてるのです此の女が諸所のお茶屋さんへ出掛けて行つては『今度鶴澤から出た妓は柄に似合はない腕利きですから如何か宴會でもお座りの折などには招んで下さいまし、ソリヤ却々面白い飛び放れた藝をやりますよ……何うせ吉原で散々ぱら叩き上げて來た身体ですからお客扱ひは私が保證します』と親切にも觸れ込んで呉れましたのでソンナ殺ならばと急に諸々方々から坐敷がかゝつて來るやうになりましたからダン〱此の社界でも妾の名が皆さんに知つて來てお樂は腕の藝妓だとの評判が〱と仙臺中へ廣がつてしまつたのです（つゞく）